

「ことばの教室、二年目にして分かったこと」

島田花子

通級指導教室は子ども一人と向き合うのだから、手厚くできることがあるはず。一年目は負ってスタートしました。吃音や構音について知るために資料を読みあさり、先輩の先生方に尋ね、指導法を学び試しました。しかし、すぐに成果が出るわけではなく、焦る思いから、子どもとの距離が縮まらないまま、様々なことばへの直接指導をしました。やはりうまくいきません。



指導に悩む日々、研修で「ことばを育むために必要なもの」について学びました。私は、苦手な音を練習させよう、良い耳を育てようと直球で指導しました。

でしたが、そうではなかったのです。ことばが育つためには、ゆったりとした楽しいコミュニケーションを通して、伝えたい

清涼談義



カット 日野小 宮坂俊之

「新たな場所へ」

小山 あき

四月から墨坂中学校で勤務しています。昨年度までは東京都で働いていましたが、心機一

という思い、伝わった喜びを味わう体験が大事なことです。私は「子どもと仲良くなること」からもう一度始めました。

二年目の教室では、子ども達と遊びながらその子の興味関心をつかみそれのことばの教材にしようともっばら考えています。また子どもにとっては遊びでも実はことばの勉強をしている、そんな場を大切にしています。保護者とは、遊びを通してどんな伸びが見られたのか、新たな課題は何かという点を共有しています。(須坂小)



転新たな場所でスタートを切りました。須坂は生まれ育った場所ですが、教員という立場になって初めて気づく地元の良さが数多くあります。そのうちの一つが、学校と地域の距離の近さです。資源回収という行事は東京にはないものの一つで、授業参観に訪れる保護者や地域の数

も東京とは比べものになりません。学校は学校で子どもを育て、家庭は家庭で子どもを育てているように切り離れたイメージを以前はもっていました。今は学校と家庭、そして地域が一体となって子どもを育てているように強く感じます。多くの目で子どもを見守り育てていきたい、そしてその一人としての責任をもって仕事をしたいという思いを固めた新年度でした。東京都での四年間の経験も活かしながら、これからは長野の子どもたちのために力を尽くしていきたいと思っています。(墨坂中)



第224号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会理事長 丸山和男
編集人 会報編集委員長 宮坂ゆかり
印刷所 須坂新聞社

「新たな出発を迎えて」

上高井教育会理事長

丸山和男



本年度は、上高井教育会が発足してから百三十二年目を迎えます。上高井教育会が設立されたのは、平成元年の四月二十六日です。この二十六年間、上高井教育会が果たしてきた役割は、決して小さくありません。この二十六年間、上高井教育会が果たしてきた役割は、決して小さくありません。

形は変わりましたが、先輩の先生方が大切にしてきた「全員が参加して教育会の方角を考え決めていく」という精神を忘れずに、代議員の先生方の一層の活躍を期待するものであります。それぞれの学校において、会員一人一人の意見を取りあげ、総会において熟議・決定する役割は以前よりますます重く

なるといえます。今教育を取り巻く環境は大きく変化し、私たち自身が「本」に教育会の意義を理解しているのか」ということが問われています。「何となく、先輩から言われたから入っている」というのではなく、本来の意味をも一度考えてみる時期にきているのではないのでしょうか。上高井教育会は、小さい教育会ではありますが、「不易流行」の精神を基に、「子どもたちに力をつけたい」「自分を高めたい」という職能向上の思いと、「仲間と学び合いたい」という協働の思いが脈々と引き継がれてまいりました。

一方、子どもたちを取り巻く環境等を含めた子どもたちの実態は変化しており、同時に、教育学や心理学等の発展に伴い指導の仕方も変化しております。最近では「アクティブラー

編集後記

平成二十八年度会報二二四号を発行し、無事お届けすることができました。お忙しい中、原稿をお寄せいただきました会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

皆様からのご意見をいただきながら、より親しみをもって読んでいただける会報を目指し

平成28年度 県外視察者名簿 (敬称略)				
	氏名	視察目的・テーマ・内容等	視察方面	実施時期
1	東中 興幸雄	「ICTを効果的に活用したおおすか型授業スタイルの確立」について研修する。	静岡県掛川市大須賀中学校	9月12日
2	東中 星野友実	上級生が下級生の模範となる交流の場の設定、教科センター方式について研修する。	福井県福井市至民中学校	6月21日
3	相森中 飯泉大輔	第34回関東ブロック中学生社会科教育研究大会への参加	関東方面	11月上旬
4	高山中 中山裕之	学力向上に係る取り組みについて～教科センター方式等～黙想を取り入れた清掃について	福井県福井市	1学期中
5	豊丘小 日比野陽子	一昨年より上高井音楽同好会で筑波大学付属小の高倉先生をお招きし、研修をしている。子どもたち一人一人を大切にしたい音楽の授業の在り方に興味をもち、学ばせていただいているが、実際の授業を見ることで最新情報にふれ、キャリアアップにつなげたい。	筑波大附属小学校	未定
6	井上小 吉池朋子	どの子どもも参加でき、楽しく、「わかる・できる」授業づくりの工夫について研修し、日々の授業に生かす。	筑波大附属小学校	未定
7	井上小 小林理恵	授業づくりの実践力をつける研修会に参加し、日々の授業に生かしていく。	東京	12月
8	井上小 松澤裕子	主体的・協働的な学び－アクティブラーニング－	筑波大附属小学校	2学期
9	仁礼小 中井光一	東京大学の市川先生が提唱されている「教えて考えさせる授業」について研修会に参加し、理解を深めるとともに、実践に向けて研究を行いたい	東京大学	8月

教育会だより

41	各校にて代議員及び信教代議員選挙
4	第一回総会
	○新役員の承認
	○定款の一部修正
8	第一回理事会
20	教育会会計監査会
21	第二回理事会
26	研究委員長会
52	第一回定時社員総会
	○H27決算承認
	○H28更生予算承認
	研究総委員会研究委員会同好会世長会同好会発足(常盤中)
10	教研学校代表者会
16	教育会総集会
	○会員意見発表
	常盤中山崎福太郎教諭
68	「ボクは僕だから」
31	講演伏木久始先生
26	「授業実践の省察から子ども理解を深める教師」
24	「子どもと共に創る授業」からの気づき
10	新任者教育懇談会
8	研究推進委員会
17	上高井賛助会総会
10	第三回理事会
8	同好会②
7	同好会③
15	研究委員長会
	上高井教育会報第224号発行